

学会記事

§ 2014 年度秋季大会報告

1. 2014 年度秋季大会は 9 月 27 日 (土) ~28 日 (日) に鹿児島大学において盛会裏に行われた。前日の 26 日 (金)には若手研究交流会 (参加者 32 名) が、27 日 (土)には公開シンポジウム「産官学連携等による肉用鶏産業の展開—鹿児島事例—」 (参加者 140 名) が開催された。また、編集委員会、産学交流促進委員会、国際交流委員会、将来構想委員会、若手幹事会、理事会が開催された。28 日 (日)には一般講演、評議員会、常務理事会、総会、総会後に学会賞、優秀論文賞、優秀発表賞授与式および学会賞受賞者講演が行われた。

(大会委員長 岡本新会員、一般講演 54 題、参加者 150 名)

2. 理事会・評議員会および総会で報告、決定された主な事項は以下のとおりである。

(1) 大会関係

○2015 年度春季大会は、宇都宮大学において 3 月 30 日に開催される予定である (大会委員長 菅原邦生会員)。

(2) 賞関係

○平成 26 年度日本家禽学会賞

平成 26 年度日本家禽学会賞は、選考委員会 (委員長、喜多一美会員) における選考および書面による理事会・評議員会の審議・承認を経て、太田能之会員 (日本獣医生命科学大学)、対象業績「ニワトリ胚および初生ヒナの栄養改善による生産能の向上に関する研究」、および高橋秀彰会員 (農研機構畜産草地研究所)、対象業績「ニワトリの経済形質に関わる遺伝子の特定と育種改良への応用に関する研究」の 2 名に授与された。

○The Journal of Poultry Science 優秀論文賞 (平成 25 年、2013 年)

編集委員会の選考および理事会の審議・承認を経て、優秀論文賞は以下の 2 編に決定された。

1. QTL mapping for meat color traits using the F₂ intercross between the Oh-Shamo (Japanese Large Game) and White Leghorn chickens.

Minori Yoshida, Akira Ishikawa, Tatsuhiko Goto, Naoki Goto, Masahide Nishibori, Masaaki Tsudzuki.

第 50 巻 3 号 : 198-205 ページ

2. Synergistic Effect of Feeding *Aspergillus Awamori* and *Saccharomyces Cerevisiae* on Growth Performance in Broiler Chickens; Promotion of Protein Metabolism and Modification of Fatty acid Profile in the Muscle.

Ahmed A. Saleh, Kunioki Hayashi, Akira Ohtsuka

第 50 巻 3 号 : 242-250 ページ

○平成 26 年度秋季大会優秀発表賞

審査員の評価に基づいて常務理事会で審議した結果、2014 年度秋季大会では、第 1 会場：表原拓也会員 (神戸大院農) 「ニワトリ胚における性腺の形成機構とその左右差」および久枝雅広会員 (静岡大院農) 「ウズラの受精における γ -チューブリンの動態に関する研究」、第 2 会場：伊藤謙会員 (岩手大院連合農) 「培養中の血清濃度がニワトリ小腸クリプトの維持に及ぼす影響」および三上由紀子会員 (東北大院農) 「コエンザイム Q₁₀ (CoQ₁₀) を給与した暑熱感作鶏の肝臓脂質過酸化抑制作用の解明 : α トコフェロールとアスコルビン酸の相互作用」にそれぞれ授与することが決定され、総会終了後に授与式が執り行われた。

○平成 27 年度日本家禽学会技術賞への推薦はなかった。

(3) 日本農学会関係

○平成 26 年度日本農学会シンポジウムは平成 26 年 10 月 4 日 (土) 東京大学弥生講堂において「ここまで進んだ! 飛躍する農学」というテーマで開催された。

○平成 27 年度日本農学会シンポジウムのタイトルは「国際土壌年 2015 と農学研究—社会と命と環境をつなぐ—」 (仮題) をテーマに開催することになった。

○平成 27 年度の日本農学賞および日本農学進歩賞への推薦はなかった。

(4) 日本学術会議関係

○第 2 3 期日本学術会議畜産学分科会から協力依頼があれば対応することとした。

(5) 産学交流促進委員会関係

○平成 26 年 9 月 27 日 (土) に公開シンポジウム「産官学連携等による肉用鶏産業の展開—鹿児島事例—」を開催した。

○平成 27 年度秋季大会でシンポジウムを開催する予定である。

(6) 日本家禽学会将来構想委員会関係

○会員数の増加を目指した活動を行っていく。特に、今回新たに制定された海外会員、シニア会員および学生会員の増加策を検討する。

○国際的な情報発信を行うために検討していく。編集委員会と合同で、PubMed への掲載、研究倫理の問題を整えていく。

○将来的な国際学会の開催を国際交流委員会および若手研究会と議論することを始める。

(7) 国際交流委員会関係

○世界家禽学会への日本支部ニュースを提供する。第10回アジア太平洋家禽会議 (APPC) (2014年10月19~23日) 韓国大会へ参加する若手研究者への旅費支援対象者を決定した(3名)。また、この大会のコンgresバッグに学会・JPSの宣伝を印刷したリーフレットを入れてもらう。

○WPSA ニュースレターに海外会員枠を設けた旨のアナウンスと入会の呼びかけを行っている。

○第25回世界家禽会議(2016)は北京で、第26回世界家禽会議(2020)はパリで開催予定である。

(8) 広報委員会関係

○学会とJPSを広報する英語版のリーフレットを作成した。

○学会ホームページのデザインを更新する予定である。

(9) 若手研究会関係

○平成26年度秋季大会で若手企画「若手研究交流会(9月26日(金))」を開催した。

○平成27年度春季大会でランチョンセミナーを開催予定である。

(10) 家禽学用語集編集委員会関係

家禽学用語集について、記述に誤りがあれば修正する体制を継続する。

(11) 会員の移動

○平成26年9月10日現在の会員状況

(平成26年2月末日からの増減)

名誉会員	11名	()
A会員	134名	(+4 -13)
B会員	194名	(+18 -22)
A学生会員	13名	(+5 -2)
B学生会員	45名	(+32 -37)
合計	397名	(+59 -74)
A賛助会員	24社	()
B賛助会員	11社	(+1 -1)
賛助会員合計	35社	(+1 -1)
総計	432	(+60 -75)

○新会員制度を有効活用するために、外国から投稿があった場合に投稿者に海外会員のお知らせを送ることや、退職が理由である大会希望者にシニア会員のお知らせを送ることを検討する。

(12) 編集関係

○The Journal of Poultry Science 誌第51巻2号~第51巻3号、日本家禽学会誌51巻J1号、ニュースレター14号、講演要旨2冊(春季大会号・秋季大会号)を発行した。

○The Journal of Poultry Scienceの2014年インパクトファクターが公開された(IF=0.787)。

○倫理上の問題を整えるために、JPSの投稿規定に動物実験に関する規定を加える予定である。

○和文誌は、産業界や県の研究者・技術者との連携を強化するための方策を検討する。

(13) 会計関係

○平成24年度~平成27年度までの科研費補助金(研究成果公開促進費)「学術刊行物」の交付が内定しており、平成26年度分が交付された。

○平成26年度の会計は、予算に従い順調に消化されていることが紹介された。

(14) その他

○日本家禽学会賞、日本家禽学会奨励賞および日本家禽学会技術賞の選考に関して、インターネットが発展したことを利用して、評議員会におけるメール審議を充実させることとした。

§ 2015年度日本家禽学会賞および同奨励賞候補者の募集について

2015年度両賞の受賞候補者推薦を募集している。締め切りは2014年12月31日(水)で、期日までに選考規程を参照して候補者の推薦をお願いしたい。なお、奨励賞については2015年4月1日現在において、満40歳以下の方が対象となっているので、ご注意いただきたい。